

ら

舌音にして單子音の一つ。

ら 羅(名)

薄く織りたる絹。絹の類。○源氏「玉の軸羅の表紙」

ら 等(助名)

など。●ごも。●さう。○「我等」「小供等」意味なく或る詞の後に添へたる詞。○萬葉「子なら妻なら置きてらも來ぬ」好忠集「世の中を憂しさらいは片時も有り經なんやぞ忍ばればこそ」

ら (助辞)

雷(名) いかづち。●かみなり。鳥の名。加賀の白山などに住みて形雉子に似たる鳥。世俗雷獸を食ふ鳥と言ひ傳へて雷鳴のする時は此鳥の盡をかきたる懸物を掛け雷除の呪とするの風習あり。○後鳥羽院「白山の松の木陰に隠るひて安らに住める鶉の鳥かな」

らい

らい

らい

らい

らい

らい

らい

らい

らい

らい

らい

らい

らい

らい

らいばん

らいはほう

らいごう

らいだう

らいてう

らいてう

らいてう

らいちう

らいちう

らいちう

らいちう

らいちう

らいちう

らいちう

らいちう

らいちう

らいちう

らいちう

らいちう

らいちう

らいちう

らいちう

△(動)―禮拜す。

禮盤(名) 僧の誦經などする時に昇る壇。

●高座。

來訪(名) 來り訪ふ事。△(動)―來訪す。

雷同(名) 何の思慮もなく他人の説に同意する事。△(動)―雷同す。

禮堂(名) 佛を拜む堂。●拜殿。(蜻蛉)

來朝(名) 外國人の我國に來る事。△(動)

―來朝す。

雷鳥(名) 鳥の名。鶉に同じ。

來着(名) 來り着く事。●到着△(動)―來着

す。

來臨(名) 手紙の詞。光來、來駕、來車などに

同じ。

來駕(名) 手紙の詞。來訪の敬語。

來陽(名) 來年の春。

雷除(名) 「一」雷を除くる爲めの物。雷除の

守。「二」特には避雷柱。●避雷針除

來談(名) 來りて談話する事。

來歴(名) 由來經歷。

磊落(名) 小事に頓着せざる事。●けちく

けちく

けちく

けちく

けちく

せざる心。△(動)―磊落なる。(副)―磊落に。

らいらく

雷落(名) 雷の落つる事。●落雷。

らいう

雷雨(名) 雷の鳴りて雨の降る事。

らいくわ

雷火(名) 雷鳴する時にひらめく火光。●落雷より起る火事。

らいふ

雷斧(名) 長さ三四寸位に石にて作れる斧の形したるもの。今も土中より往々掘り出だす事あり。石器時代の人民が小刀に用ひしものにやあらん。●天狗の鉞。●石斧。

らいふる

(名) 英語より出づ。◎小銃の一種にして銃身の内面に旋條あるもの。

らいふく

禮服(名) 古へ御即位大嘗會の時に着したる装束。すなはち大袖・小袖・單・表袴・大口・裳・綬・玉佩の具。

らいこう

來貢(名) 外國より來りて貢を奉る事。△(動)―來貢す。

らいかう

來航(名) 外國より航海して來る事。●渡來。△(動)―來航す。

らいかう

來迎(名) 佛菩薩の現はれ來りて極樂へ迎へ行く事。●衆生を迎ふる爲に佛菩薩の出現す

る事。

らいてい

雷霆(名) 雷に同じ。

らいでん

雷電(名) 雷鳴と電光と。

らいざん

禮讚(名) 佛德を讚美する佛法の儀式。

らいきやく

來客(名) 訪ひ來る客人。

らいめい

雷鳴(名) 雷の鳴ること。●かみなり。△(動)―雷鳴す。

らいめい

雷名(名) 世間に轟き渡る名。●高名。

らいし

禮紙(名) 本式の書狀の時。文言を書きたる紙面の上下を別に包みたる白紙。

らいし

疊子。楊子(名) 古へ菓子など盛りたる器。高坏の形にて上は塗桶の蓋をあふのけたるやうに造りたるもの。内は朱塗外は黒塗螺鈿なご種々あり。

らいしん

來診(名) 醫師の我家に來りて診察する事。

らいしん

來信(名) 信書の來る事。

らいじん

雷神(名) 雷鳴を司る神。世俗鬼の如き形にて數個の太鼓を負ひ撥もて打ちたるものと想像して畫などにも常にかく。

らいしゃ

來車(名) 手紙の詞。來駕・來臨・光來に同じ。

らいびやう

癩病(名) 病の名。漸次全身に腐敗を及

らいひつ

ばす一種の皮膚病。●かつたい。
禮畢(名) 大禮儀式の畢りたる事。……代始

和抄。御即位の處に「事をはらんとする時に左の侍從。云々。御前にあたりて笏を引

きて禮畢を奏す。云々。是は今日の大禮事畢りぬるよしを天子に知らせ奉る儀なり」

らいひん

來賓(名) 來客。

らいじゅう

雷獸(名) 獸の名。形狸に似て雷鳴の時は深山より出て來ると云ふもの。

らいもん

雷文(名) 模様の名。いなづまかたに同じ。

らいせ

來世(名) 佛教にて言ふ未來の世。●死して行く先。

らいす

禮(他動サ變) をむ。●拜す。

らに

蘭(名) 草の名。らんと同じ。

らぼつ

螺髮(名) 螺旋形に卷き縮れたる髮。釋迦の像などにある如きもの。

らあ

埒(名) 「一」×形に作りたる竹の圍ひ。●矢來。

らりよう

羅綾(名) うすもので綾織物也。○琴唄「羅綾の

袂も引かばなごい絶はざらん」

らりようわう

羅陵王。蘭陵王(名) 雅樂の曲名。昔し支

らる

(助動下二段) 上、下二段、一段及びカ變サ變の動詞の下に來る詞。「一」他動詞を被然言(受身)にする時の形。○「見らる」「賞せらる」

「二」自動詞、他動詞を自然言(おのづから然る詞)にする時の形。○「快く散歩せらる」「自ら化せらる」「三」敬語とする時の形。……

其人に對せずして陰にていふ時の敬語なり。○「大臣歸京せられたり」「御身よく見られよ」

らうに同じ。煙管の管。

羅蓋(名) 羅にて作れる傘。貴人の道行く時とし翳さするもの。

(名)

らかん

臙乾(名) 乾したる豚の股肉。

羅漢(名) 佛教にて阿羅漢果といふ位を得たる資格の人。釋迦入滅の時五百人に満ちたり。

之を五百羅漢と云ふ。其中より更に優等なるものを拔擢して十六人を得たり。之を十六羅漢といふ。

六羅漢といふ。

らたい

裸體(名) はたか(の)身體。

られつ

羅列(名) 並び列なる事。●並列。△(動)―羅

らつ

埒(名) うちに同じ。

らっば

喇叭(名) 軍隊用の笛。金屬製にして朝顔形に末

らっふ

亂舞(名) らんぶに同じ。

らっこ

臘虎(名) 海獸の名。北海に住みて柔軟且つ美

らっきよう

蕋(名) 草の名。韭の一種。根を漬物として食

らん

蘭(名) 「一」草の名。葉細く花香ばしく雅味ある

らん

欄(名) 「一」欄干。「二」書籍新聞などの周圍を仕

らん

蘭(名) 植物として文人などに珍重せらるゝもの。

らん

蘭(名) 春咲くを春蘭といひ秋咲くを秋蘭また蕋といふ。「二」草の名。藤袴の一名。「三」國の名。

らん

和蘭陀の略。○「蘭語」「蘭書」

らん

切りたる框。「三」欄を別にするより起りて

らん

◎一部門。○「社説の欄」「小説の欄」

らん

装束の名所。縫腋の袍および直衣の裾の

らん

左右に袋の如く横にびら／＼垂れたるも

らん

蘭(名)

らん

蘭(名)

らん

蘭(名)

の。……縫腋の袍の圖を見よ。

らん

亂(名) 國の亂れ。●戦争。

らん

鸞(名) 鳥の名。想像の動物にして鳳凰の類。

らむ

(助動) らんに同じ。

らん

(助動) 現在に他の上を推量する詞。○「春は來ぬらん」「人や見るらん」

らんばつ

亂髮(名) 亂れたる髮。●亂髮。●蓬頭。

らんばこ

覽箱(名) 宣言を入る、箱。○盛衰「覽箱の蓋に」

らん

蘭若(名) 梵語より出づ。◎寺。

らん

亂入(名) 亂れ入る事。●暴れ込む事。△(動)―亂入す。

らん

亂暴(名) あげれる事。●狼藉。△(動)―亂暴す。

らん

卵塔(名) 卒都婆。●墓。

らん

明塔場(名) 墓場。●墓地。

らん

襪縫(名) ついれ。●ぼろ。

らん

欄干(名) 椽側、廊下、階、橋、舟などの手すり。

らん

鸞輿(名) 天皇の御乗物。

らん

籃輿(名) 山駕籠。

らん

山駕籠。

らん

山駕籠。

らん

山駕籠。

らんよう

濫用(名) 濫りに用ふる事。●妄用。△(動)

— 濫用す。

らんだ

懶惰(名) 不勉強なる事。●不精。●怠惰。●な

まけ。△(形) — 懶惰なる。(副) — 懶惰に。

らんさう

卵巢(名) 子宮の左右にあるもの。

らんざう

亂聲(名) らんじやうに同じ。

らむね

(名) 炭酸を入れ溶かして作りたる飲物の名。

夏の日暑さ凌ぎなどに用ふるもの。

らんぐひ

亂杭(名) 城砦などの防禦のため不規則に打

ち込みたる杭。

らんぐい

欄外(名) 書物新聞などの周囲の框の外。

らんぐん

亂軍(名) 敵味方入亂れて戦ふ事。

らんま

欄間(名) 家の天井と鴨居との間にある窓の如

き所。

らんまん

爛漫(形) 其物の性質のまゝに美しく顯はる

有様。●花の咲き亂れたる有様。○「梅花

爛漫」「天真爛漫」(又) — 爛漫たる。△(副) —

爛漫。

らんけい

鸞鏡(名) 十二律の一つ。雅樂の調子の名。

らんぶ

亂舞(名) 「一」古へ五節の舞の後などに殿上人

どもの今様など適宜に歌ひ舞ひ遊ぶ事「二」

らんぷ

洋燈(名) 能樂の一名。英語より来る。◎火を燈す硝子製の

器。

らんど

亂碁(名) 碁石にてする中古の遊戲。○拾遺「亂

碁取らせ給ひけるに」續世繼「亂碁拾ふ音」

らんざつ

亂雜(名) 亂暴混雜なる事。●ごたごた。△

(形) — 亂雜なる(副) — 亂雜に。

らんぎょく

蘭曲(名) 謠曲の一種。短文句のみにて獨吟

などに詠ふもの。

らんしやしょう

濫觴(名) はじまり。●起原。

らんじやしょう

亂聲(名) 雅樂上の詞。横笛のみにて吹

く曲。按摩亂聲、陵王亂聲などの類

らんじや

蘭麝(名) 香の一種。

らんじやたい

蘭香待(名) 名香の名。

らんびつ

亂筆(名) 亂雜なる書方。

らんびん

亂髪(名) 亂髮。

らんびき

蒸溜甞(名) 葡語より出づ。◎物を蒸溜する

器械。もさ蘭より輸入せしもの。

らんせい

卵生(名) 動物學上の詞。魚鳥虫など卵より

生る、事。

らんせい

蘭省(名) 唐の役所尙書省の異名。……白氏

文集の詩に。蘭省花時錦帳下。盧山雨夜草庵中。さあるより出で、古歌などにもよめり。○夫木「らんせい」の錦の色もいかならんかたへにはへる山櫻かな」

亂世(名) 亂れたる世。

亂醉(名) 大醉。

羅宇(名) 烟管の雁首と吸口の間に篋めたる竹管。●らお。

酪(名) 牛羊等の乳の製したるもの。

樂(名) 「一」たのしみ。●身心の安息。「二」たやすき事。●無造作。●簡易。△(形)「らくな。(副)「らくに。

樂(名) 語尾のるを延べたる詞。○萬葉「汐満てば入りぬる磯の草なれや見らく少なく戀ふらくの多き」

落馬(名) 馬より落つる事。△(動)「落馬す。

落髮(名) 髪を剃る事。●僧になる事。●落飾。△(動)「落髮す。

落魄(名) 零落する事。●流浪。△(動)「落

らくは

らくばい

らくは

らくは

らくは

らくは

魄す。

落北(名) 京都の北部。

洛東(名) 京都の東部。

落雁(名) 「一」空より飛び下る雁。「二」菓子

の名。小麥粉と砂糖にて製したるもの。

樂書(名) むだがき。●いたづらがき。●あそびがき。

落丁(名) 書物を製本する時脱け落ちた

る紙。

落著(名) 事のなごまり。●結局。●落居。

△(動)「落着す。

洛中(名) 京都の市内。

落涙(名) 涙を落す事。●流涕。△(動)「落

涙す。

洛陽(名) 京都の異名。

落葉(名) おちば。

駱駝(名) 獸の名。馬に似て大なるもの。

落題(名) 其目的とする題意を傍にし他の意

味を主としてよみたる和歌。

落第(名) 試験に及第せぬ事。●不合格。△

(動)「落第す。

らくだ

らくだ

らくだ

らくだ

らくだ

らくなん

落南(名) 京都の南部。

らくらん

楽々(副) 心の安き有様。

らくらん

落々(副) 物の落つる有様。○謡曲「らくく」に落ちて」

らくくわ

落花(名) 花の散る事。●散りたる花。

らくぐわい

洛外(名) 京都の市外。

らくくわん

落款(名) 〔一〕書畫の面に筆者の名を書く事。〔二〕落款の下に捺す印。

らくくわん

落花生(名) 草の名。豆に似て地下に實を結ぶもの。一名は南京豆。

らくくわん

樂焼(名) 陶器の一種。手捏れにて土焼にせるもの。……豊臣秀吉が京都の聚樂第にて朝鮮の陶器師朝四郎といふものに焼かせ樂の一字を印せしめしに創まる。

らくくわん

落語(名) 落し話。

らくくわん

落札(名) 入札の當りたる事。△(動)―落札す。

らくくわん

落居(名) 落着に同じ。

らくくわん

落命(名) 命を落す事。●死ぬる事。△(動)―落命す。

らくくわん

落字(名) 書き落したる字。●脱字。

らくし

落書(名) 嘲弄、諷刺等の意を記して辻なごに落し置きて世に知らする文。●おとしぶみ。

らくし

落掌(名) 手紙の詞。受取る事。●落手。●受領。△(動)―落掌す。

らくし

落城(名) 城の陥る事。△(動)―落城す。

らくし

落飾(名) 髪を剃る事。●僧になる事。●落髮。△(動)―落飾す。

らくし

落日(名) 夕日。●入日。

らくし

落首(名) 嘲弄、諷刺等の意を寓して路傍などに掲け置く一種の狂歌。下野守源義朝の棟の木に梟せられし時「下野は紀の守(木の)上)にこそなりにけれよしとも(義朝)見ぬ上官かな」としたる歌の類。

らくし

落手(名) 手紙の詞。受取る事。●落掌。●受領。△(動)―落手す。

らくし

落成(名) 工事の出來る事。△(動)―落成す。

らくし

洛西(名) 京都の西部。

らくし

螺鈿(名) 亂碁に同じ。(圓融院扇合)

らくし

螺鈿(名) 鮑貝などの光彩ある部分を細かくして漆と共に塗り込めたる細工。○「螺鈿の軸」螺鈿の太刀」

らくし

らてん

羅甸(名) 羅甸語の略。

らてんこ

羅甸語。拉丁語(名) 古來歐羅巴に行はれたる羅甸國の言語。今け僅に學術上に行はる。

らま

(助辭)

口調の助に置く意味の無き詞。○續紀宣命「天皇が^{すめらみ}大命^{おほいみこと}らまこのりたまふ大命を宣る」

らめ

(助動)

らん^{らん}の變化。○「かくこそあるらめ」思ふらめども」

らし

(形。形狀言シク活)

「一」の如く見ゆる。●なるべしと推量せらる。○「明日は雨らし」向の山のは花らしく見ゆる」「二」いかにも其物と見ゆる。○「女らしく立ち振る舞ふ」

らし

(助動)

推量して定むる詞。●らしい。「一」雅言にては變化なし。○新古今「ほのくさ春こそ空に來にけらし天のかぐ山霞たなびく」「二」俗言にてはらしいらしきらしくらしけれなき變化す。

らしんばん

羅針盤(名) 航海用の磁石盤。

らしや

羅紗(名)

羊の毛にて作れる織物の名。

らしめん

羅紗綿(名)

「一」獸の名。羅紗の毛を取る綿

羊。「二」日本の女にて洋人の妾たるもの。

らせつ

羅刹(名) 地獄にて罪人を阿責する惡鬼の一

らせん

螺旋(名)

つ。●又速疾鬼の一名。(佛敎)「一」ねど。「二」螺旋形。

らせんけい

螺旋形(名)

ねちのやうに曲りたる形。

らもんすき

羅文薄(名)

薄の一種。葉に羅の織目の

如き摸様の附きたるもの。(枕)

